

「道であり、真理であり、いのちである主」ヨハネ14：1-6 16・10・2

I 「あなたがたは心を騒がしてはなりません」：1。

主は、人生の中で、打ちしおれる私達を慰め、堅固にし、気を引き立てて下さる素晴らしいお方！

II 「神を信じ、またわたしを信じなさい」：1。

私達は、この主の力強い御言葉に心をしっかり留めたい。父なる神と主イエスへの信仰、信頼こそ、心騒がせる事への最も真実な霊的医薬である事を！私達は、決して忘れないようにしたい。

まことの信仰は成長する余地のあるものであることを。

主は、日々、また、困難の時、神に抛り頼む他ないような試練を通して、

主への信仰、信頼を成長させて下さる。

III 「わたしの父の家には、住まいがたくさんあります」：2。

「わたしの父の家」＝天国にあるわたしの父の家。神は、私達の様に壁や屋根のある家を必要とされない。神が住まわれる、臨在される所が神の家。

この地上では、私達の心、教会が神の住まい、臨在される所、天では天国が神の住まい。

私達が地上の使命を終え、いつか死を迎える時、主が迎えて下さる天国は、「私たちの父の家」である。非常に感動的で励まされる。天国はまことの神が父である温かい家庭である。

「住まいがたくさんあります」＝「住まい」と訳された言葉は「居住する場所」という意味。

ここでは対比がある。私達のこの世の住まいは、変わったり、つぶれたり、追い出されたりする。

しかし、主が私達の為に用意される天国の住まいは、変わったり、追い出されたりすることなく、素晴らしい主が共におられる快適な住まい。天国には十分な部屋がある。

IV 「あなたがたのために、わたしは場所を備えに行くのです」：2。

キリストは、私達の罪の為に十字架で死なれ、私達の為の大祭司（神と人の仲介者、とりなし手）として天に入られ、民の罪のためにご自分の十字架の完全な償い、贖いを神に差し出される。

主は、私達、人間の罪が作った、神と人のすべての壁を取り除かれる。民の代理人、代表者として進み出て、彼を信じるすべての人のために天国入国の権利を請求して下さる。

※ここで誤解してはならないことがある。父なる神は厳しい方で子なる神イエスは優しい方と言う神観である。それは全く違う。父なる神も子なる神も同じ御性質。

大きな愛と、罪は罪として正しく裁く義の方。主の十字架は、罪人である私達を救う神の愛

（父なる神は大切なひとり子イエス様を私達を愛し私達の救いの為に十字架につけられた）と

私達の罪を正しく裁くという義（主は私達の身代わりに私達の罪の刑罰を受けられた）がクロスした所。

主は神の右にあって、いつも民の為に執り成して下さる。罪ある私達を、いつも主にあって

神に受け入れられるものとして下さる。天国は、備えられた民の為に備えられた場所である。

大変勇気づけられる。

「わたしが行って、あなたがたに場所を備えたら、また来て、あなたがたをわたしのもとに迎えます」：

3。

私達が、時満ちて、地上の生涯を終えて、死を迎える時、又は主が再臨される時、主の御もと、天国に引き上げられ、私達は見知らぬ所に行くわけではないのである。主が備えられた場所、天国に行くのである。私達がそこに姿を見せる前から、私達は神に知られており歓迎される！何という幸せ！

「わたしのいる所に、あなたがたもおらせるためです」：3。

天国とは「永遠に主とともに」ある所。天国で他の何を見ようが見まいが、私達はキリストを見る。天国がいかなる場所であろうとも、そこには最高のキリストがおられる最高の場所である！

V 「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のもとに来ることはありません」：6。

1. 「わたしが道であり」 = 「天にある父なる神の家（天国）に達するには、わたし（主）の十字架の恵みによる仲介と贖罪、罪の償いによらなければならない。わたしへの信仰が天国への鍵なのです。わたしを信じる者は、この地上でも、一步一步、わたしに道を祈り求め、真の神、天国に至る正しい道を歩んでいるのです」。

「イエスはご自分の肉体という垂れ幕（十字架の計り知れない恵み）を通して、私たちのためにこの新しい道（救いの道、神に近づける道）を設けてくださったのです」ヘブル10：20

2. 「わたしが真理であり」 = 「すべての正しい知識の源は、わたしを知る事です。わたしは、すべての啓示が指し示すまことのメシヤ、救い主です。旧約聖書の儀式と供え物が指示している真理そのものです。わたしを本当に知る者は、天国に行くのに十分な知識、真理を持っている。この地上を歩むあなたがたに、わたしは、祈りと聖書を通して真理（何が正しいか間違っているか、わきまえる）を教え導きます。

3. 「わたし（主）がいのちなのです」 = 「私は、すべてのいのちの根であり、泉であり、造り主です。死からの救済者であり、永遠の滅びから救い、永遠の命を与える者です。私を知りわたしを信じる者は、どんなに自分を弱く、無知だと感じたとしても、今、霊的新しい命を持っており、今後、父の家（天国）において栄光ある命を持つのです」。

VI 「わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません」：6。

主がここで教えられているのは、主イエスこそ、私達の天の父なる神に至る道であるばかりでなく、それ以外の道はないということ。

「天の父なる神に至る、近づく、ただ一つの道」 = イエス御自身。

一切が主を通しての道にかかっている。ただ一つの道がある。

「わたし（主）を通してでなければ」 = 神に近づく、天国に入る戸口、門、道、入口としての私を通してでなければ、正しく偉大で愛に満ちた天の父なる神のみもとに来る事は出来ない。

最後に心から感謝します。まことの道、真理、命であるイエス様を心に迎え救われる恵みを。

主を信じる事により父なる神に近づき愛され、天国に行ける恵み。